

患者総合サポートセンターを 開設——京都民医連中央病院

患者総合サポートセンター長 甲田由美子

今年2月に開

設した患者総合サポートセンターは、何でも相談できる場所として、10人の方が同時に座っていただけのカウンターを用意し、そこにはいろいろな部署が集まっています。病院外とのパイプ役である地域医療連携課、保険・減免・介護相談の医療福祉課、入院手続きを行う入院診療事務課、緊急受診・予約外来の総合窓口となる外来診療事務課などが、このサポートセンターを担います。

病院に來られたら、サポートセンターがすぐに分かるよう全面ガラス張りにしました。相談に來られた方をお待たせすることなく、気軽に寄っていただし、なんでも相談してもらえるところを最大の目標としています。



センター開設3つの理由

第1は、京都民医連中央病院が28年を迎え、かなり老朽化しています。当院を利用されるにあたりご不便をおかけしています。毎日仕事をしている職員はそんな環境に疎く、気づくことができない部分があるのではないかと、療養環境の不具合を教えていただき、不十分ではありますが、改善していく手だてを講じたいと考えています。

第2は、2011年10月に吉祥院病院と上京病院の111ベッドを中央病院に移転し、同時に、職員も100人近く異動しました。見知らぬ職員が増え、入院するたびに病棟が変わることも多く、入院生活の不安な気持ちをもどる職員に聞いてもらえるのか、相談場所も見当たらないなど、ご意見を多数いただき、相談窓口が必要となりました。

第3は、医療サービスの向上を目的としています。皆様から寄せられたご意見を参考に、職員の接遇改善を図り、当院を受診してよかったですと思ってもらえるよう、質の向上を目指していきます。

より利用しやすい病院となるよう職員一同頑張りますので、忌憚のないご意見・ご要望を待ちしています。



介護福祉事業建設協力金の 積立を開始しました

——引き続きご協力ください

2014、15年度の2カ年で、総額5億円を目標に「介護福祉事業建設協力金（以下、協力金）」に取り組んでいます。この協力金はあやべ協立診療所改修（2頁参照）と京都保健会あん上京（サービスタ付高齢者住宅の正式名）の建設を目的としています。

建設工事は、4月3日地鎮祭を行い本格的に始まりました。この工事は、来年1月完成を目処に約10カ月の工期となります。景観を損なわない外観の工夫、延床面積1782平方メートル、地上6階建、部屋数40の京都民医連として初の住宅事業です。地域からの期待の声や要望を取入れ「地域に開かれた住宅」として邁進する所存です。是非とも建設事業成功の為に、多くの皆様方からのご意見・ご協力重ねてお願いいたします。

協力金は、昨年度は約1億5千万円の協力を頂きましたが、目標の50%到達でした。今年度は協力金運動の最終年度で、年度中には京都民医連中央病院のリニューアルも確定する予定です。4月から協力金の「積立」も新たに開始し、5億円の目標を達成します。申し込み方法は、従前取扱っていた「保健会基金」と同様となります。

是非とも幅広く、多くの皆さんのご協力で協力金運動を進めたいと思いますので、宜しくお願いたします。

